



Seminar / Prototyping
Satellite / World cafe
Labo / Pitch / and more ...

Pitch



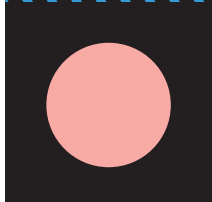
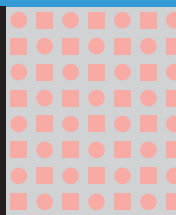
Labo

IoT

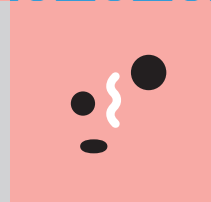
M³



**MULTI
MONO
MORIOKA**

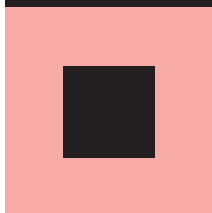


M³



IoT

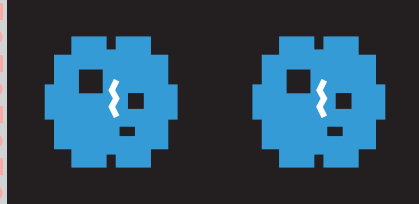
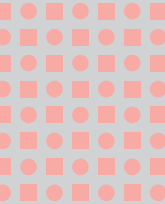
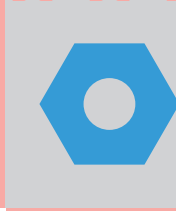
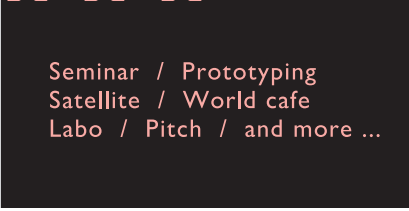
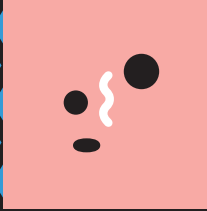
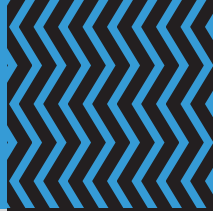
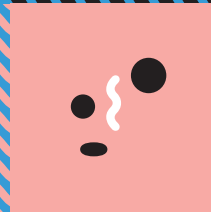
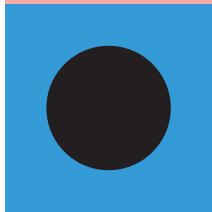
Seminar
Prototyping
Satellite
World cafe
Labo
Pitch
and more ...



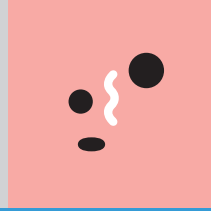
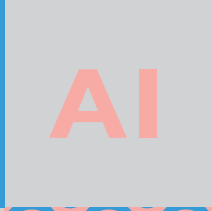
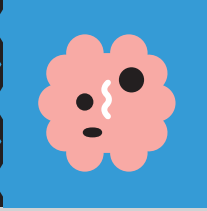
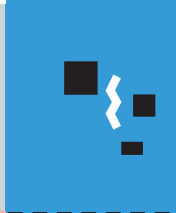
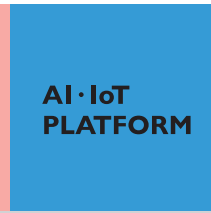
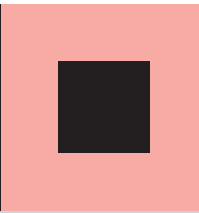
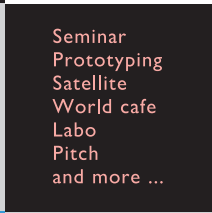
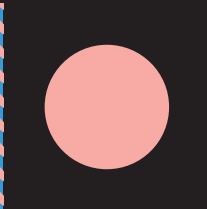
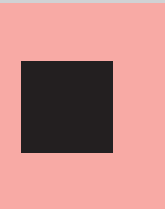
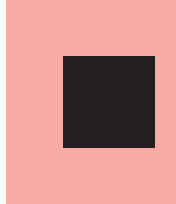
*World
Cafe*



AI



盛岡のIT・AI・
IoT・DX・ものづくりの
連携プラットフォーム





はじめて、マルチ モノ モリオカ**MULTI MONO MORIOKA**です。

MULTI MONO MORIOKA(略称:M3)は、
2021年にスタートした、「IT」と「ものづくり産業」等の発展のために、
全国から企業が参画し未来技術にチャレンジするためのプラットフォームです。

MULTI MONO MORIOKAに込められた意味

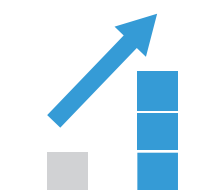
盛岡に多様で魅力的なモノや能力が集まり、掛け合わせられ、新しい取り組みにチャレンジしていくという意味を込めています。
またロゴに含まれる「二つの脳」のイラストは、盛岡で活躍する「人」と「ITサービス・プロダクト」それぞれを表し、それらが融合
する中で、新しい価値が創出されることをイメージしています。

M3が目指すモノ。

MULTI MONO MORIOKAは、盛岡市が掲げる「IT産業振興戦略」の目標実現を目指
しています。また、IT産業の成長と連動し、盛岡広域エリアで「ものづくり産業」が
新技術を通して発展し、付加価値を高めていくことも支援していきます。

盛岡市「IT産業振興戦略」が掲げる目標

2030年までに 盛岡市内の



IT産業の
売上高3倍



IT産業の
事業所数2倍



高度IT人材の
県内就職者数50%増

M3がおこなっているコト。

MULTI MONO MORIOKAは、「チャレンジ環境の創出」と「コミュニティの形成」を促すさまざまな取り組みを行なっています。

事業者のチャレンジ環境の 創出のために



【セミナー・イベントの開催】

ものづくり企業への働きかけ



盛岡のIT・ものづくり企業の方々に
向けて、セミナーを開催しています。
2021年11月には、DXが進む未来
を洞察するためのセミナー&トー
クセッションを、リアル・オンライ
ン両面でのハイブリッドで開催
しました。また、2022年2月には、

IoT導入に特化したオンラインセミナーも開催しました。今後も各分野の
先端技術トレンドを掴むために、各種セミナーを展開していきます。

20~40代が成長し合う コミュニティ形成のために



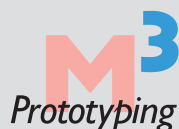
【ワールドカフェ】

若手やミドル層の企業人ネットワークづくり



盛岡エリアで働くIT・ものづく
り産業の企業人の横のつなが
りも、このプラットフォームで
強化していきます。具体的な
取り組みとしては、20~40代
の若手・ミドル層向けのデジタ
ルビジネス学習会「M3ワール
ドカフェ」を、月1回ペースで開催。毎回ひとつ、トレンドとなっているデジ
タルビジネス上のキーワードをテーマにして、盛岡の企業人が相互に学
び合い、異業種間交流ができる場づくりを行っています。今後も多
種多様な企業の参加を促していきます。

ドカフェ」を、月1回ペースで開催。毎回ひとつ、トレンドとなっているデジ
タルビジネス上のキーワードをテーマにして、盛岡の企業人が相互に学
び合い、異業種間交流ができる場づくりを行っています。今後も多
種多様な企業の参加を促していきます。



【プロトタイピング】

実証実験をサポート

デジタル分野での最先端技術を活用して、盛岡発として新たな価値を創
出する実証実験に対して、盛岡市の補助とのマッチング事業を行って
います。2021年度は、2件のモデル事業が採択され、各事業者が特色の
あるプロジェクトを推進しています。

M3では、今後もこうした新技術にチャレンジする事業者の方々に
対して、多面的なサポートを展開します。



【ラボ】

岩手の学生のためのスタートアップ支援



M3は盛岡の企業人や学生のコラ
ボ、新しいチャレンジを応援して
います。岩手県内の学生が、国内最
先端の研究に触れ、新しいテクノ
ロジーやサービスのアイデアを
生み出すことも応援しています。

2021年度には、「HONGO AI」の
ビジネスコンテストを、岩手県立大学・岩手大学の学生たちと観覧し、そこ
から刺激を受けた学生たちが、自分たちが未着手の新しい技術領域につ
いて学びを深める取り組みを行いました。



【サテライト】

サテライトオフィスの立地促進

このプラットフォームは、地元企業のみならず全国の企業の方々も参加で
きるものです。全国の事業者に向けてオープンな環境をつくり、盛岡に最
先端技術が集積していきやすい状況をつくれます。

2021年は首都圏の企業と盛岡の課題とのマッチングを行うイベント
に参画し、盛岡市へのサテライトオフィス立地を推進。コロナ禍でリ
モートワークが進む中で、地方に拠点を構えることを検討する企業に
向けて、盛岡での働きやすさ・暮らしやすさ・他業種との連携のしやすさ
を整備、発信していきます。



【ピッチ】

新たなアイデアが生まれる場

スタートアップ等の起業家や、デジタル技術を用いたプロジェクトの立案
者と、事業の成長を促進する人材、団体、プログラム等を繋いで、新たな
ビジネスアイデアの創出を目指すピッチイベントを開催していきます。

case1 ドローンとAIで社会インフラを守る

事業名

UVA(ドローン)×映像解析AI活用による橋梁点検の効率化

実施団体

**湊運輸倉庫株式会社
(NoBSIプロジェクト:株式会社オリテック21 株式会社東北工商 協力)**

● 日本の橋が高齢化している!?

日本国内の橋は、今後10年で半数が50歳を超える「高齢化」状態。そのため、すべての橋に5年に一度の点検が義務付けられ、ここ岩手県でも年間で約1万4千本もの橋梁点検が繰り返されています。

● 時間とお金を50%削減せよ!

一口に点検と言っても、高額な専用車両や大量の報告書など、必要となる人とお金のコストは膨大。このプロジェクトは、身軽なドローンと、効率よく画像を解析するAI技術の投入により、時間と経費を50%削減することを目標に立ち上がりました。

いざ実証実験を経て

点検は0.2mm幅のヒビを検出する精度が求められるシビアな世界。実用化に向けては、カメラの性能、AIの検出効率ともに更なる進化が必要ですが、現地の状況がいつでも3D画像で見られる成果データは高く評価されました。機動性の高さも証明され、岩手発の取り組みが国内インフラを支える未来が見え始めています。

令和3年度には、盛岡市の開運橋や不来方橋などで調査フライトを実施。橋脚、橋の裏側などをドローンのカメラで撮影し、AIによる画像解析を行いました。



「小さく生んで大きく育てる」

湊運輸倉庫株式会社 代表取締役社長 石川啓さん

「点検車両が届かないところをドローンが見る。診断の補助にAIを使い人が確認する。そういうことを繰り返すうちに、AIは学習を深め、性能のいいカメラも登場して、作業の確度は上がります。0.2mmの精度を担保する技術の登場をただ待っているのでは、構造物の寿命は差し迫り、自治体の財政も苦しいまま。可能な部分からロボティクスで次々回した方が効率的だと思います。ゆくゆくは、ドローンが撮影する映像を点検士がオフィスでリアルタイムに確認、報告書はAIが自動生成するようになると思います」



盛岡市では、AI、IoT、ビッグデータ、ロボティクス、xR, 5Gなどのデジタル技術を活用した取り組みを支援しています。ここでは2021年度に補助対象となった二つの事例を紹介します。

case 2 3Dキャラクターが伝統文化の未来を担う！

事業名

xR技術活用によるさんさ踊り等伝統文化伝承の実証実験

実施団体

株式会社プラスプラス

● 伝統文化は郷土愛の源

さんさ踊りのような伝統文化は、それが伝承される過程で地域のつながりを深め、郷土愛を育む役割も担ってきました。過疎地域のみならず、新型コロナウイルスの蔓延で、人々が地域の伝統に触れる機会が制限されています。

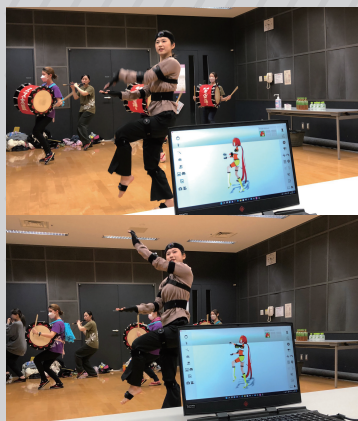
● 地域コミュニティを3Dキャラで救え！

そこに目を付けたのが、3Dコンテンツの制作などxRテクノロジーの世界を突き進む「プラスプラス」。美術品のデジタルアーカイブと同じベクトルで、無形の芸能とアニメーションキャラクターを掛け合わせた発想が光ります。

実証実験に向けて

取材時はまだ実証実験に向けて絶賛3Dモデリング中の段階。ミスさんさの踊りがモーションキャプチャーで収録され、完成すると高ポリゴンのキャラクターが滑らかにさんさを踊る様子がxR体験としてグラスを通じて実空間に浮かび上がります。技術的にはシンプルな建て付けながら、このわかりやすさは伝統文化の継承に悩む過疎地域などに強くアピールするのではと期待されています。

現役のミスさんさ踊りの顔をAIに学習させて合成し、アニメキャラクター化。完成した3Dモデルは、実際のミスさんさの踊りをモーションキャプチャーで再現する。



「エンタメの演出にヒントがある」

株式会社プラスプラス 代表取締役 中野智三さん

「かつては何千万円もの投資が必要だったモーションキャプチャーのテクノロジーも、個人のVTuber（バーチャルYouTuber）が気軽に扱える時代になりました。伝統芸能の世界も、頭を柔らかくしてエンタメの世界を参考にとすると良いヒントが見つかるのではないのでしょうか。カメラが選手の周りをぐるっと回っているように再生されるスポーツのリプレイーションなど、新技術を使った演出のアイデアは、どんどん採用していくと面白いですよね」



企業紹介

デジタル技術で盛岡地域をけん引しています。
※2021年度のM3の取り組みでご協力をいただきました。



2021年11月イベント登壇

株式会社ネクスト

1988年創業のソフトウェア開発会社。システム開発業務の他、岩手の学生のITビジネスコンテスト「岩手学生デジコン」やDX人材育成プログラム「デジジュク」を展開している。



2022年2月イベント登壇

株式会社イーアールアイ

組込み機器の企画・開発・製造・販売を行っています。強みである無線通信技術をベースに、人やモノの屋内位置情報の可視化と分析によりスマート工場化を支援する「InQross カイゼンメーカー®」を2021年に販売開始。

〈運営〉 盛岡市商工労働部ものづくり推進課

〒020-8531 岩手県盛岡市若園町2-18

盛岡市役所若園町分庁舎1階

TEL:019-626-7538 FAX:019-626-4153

〈ホームページ〉

<https://morioka-area-technology.jp/>



〈お問い合わせフォーム〉

<https://forms.gle/pfabqSPZ3qntjkG76>

